



# かもめ広場だより VOL. 17

2026年3月発行  
横須賀市医師会「かもめ広場」  
〒238-0005  
神奈川県横須賀市新港町1-11  
☎ 046-824-6430

## いざという時に備えて！

## 在宅医療の継続を支えるBCP策定ハンドブックを作成しました。



横須賀市医師会 在宅医療担当理事 佐々木 純久

近年、甚大な被害をもたらす自然災害や事故が発生し、有事における在宅医療の提供体制には多くの課題があることが明らかとなっています。

横須賀市は、谷戸と呼ばれる地形が多く、移動や支援に制約が生じやすい地域特性があり、また沿岸部では津波のリスクも想定されることから、地域の実情に応じた備えが一層重要です。

災害時において、診療所の機能を可能な限り維持し、患者さんおよび診療所スタッフの安全を確保しながら、災害関連死を防ぐ医療を提供し、さらに早期に通常診療へ復旧するためには、平時からの備えとして「事業継続計画（BCP）の策定」が不可欠です。

事業継続計画（BCP）とは、災害や事故などの緊急事態が発生した際にも、医療機関として重要な業務を継続し、または早期に復旧させるための計画です。一般的な災害対応マニュアルが「その時どう動くか」を示すものであるのに対し、BCPは「どの機能を優先して維持・復旧するか」という視点で、より実践的・継続的な対応を定めるものです。

このような状況を受け、横須賀市医師会では、各診療所がBCP策定に取り組みやすい環境づくりをめざし、令和7年度に、非常時における対応を整理し、「何をすべきか」「何を準備しておくべきか」を明確にした「BCP策定ハンドブック」を作成しました。

その後、こうした災害の多発や在宅医療の重要性の高まりを背景に、令和8年度の診療報酬改定では、在宅療養支援診療所の施設基準としてBCP策定が必須となりました。

本ハンドブックは、横須賀市医師会ホームページ「かもめ広場」（<https://www.yokosukashi-med.or.jp/zaitaku>）からダウンロードが可能です。

各診療所におけるBCP策定にぜひご活用ください。

### 1. 診療所のBCP策定ハンドブック

- ① 詳細版：在宅医療を提供する診療所等の災害時における事業継続計画（BCP）策定に活用できるサンプルとテンプレートを掲載したハンドブック形式
- ② 簡易版：災害発生時の在宅医療継続計画（シンプル版）  
要点を絞ったシンプルな構成 導入の第一歩として活用できる

### 2. 連携型事業継続計画

災害時に在宅医療・介護事業所等が連携し患者・地域住民の命を守る取り組みを明らかにするもの

### 3. 患者さん用リーフレット「災害時に命を守るための準備はできていますか」

患者さんやご家族に日頃からの備えを促す内容（リンクパスポートに挿入）

## ● 横須賀市医師会「かもめ広場」 BCP への取組み

令和 6 年 7 月 横須賀市内の在宅療養支援診療所を対象に意識調査を実施（一部抜粋）

図 1 診療所が被災して単独で診療が継続できなくなった時に協力を得られる診療所はあるか

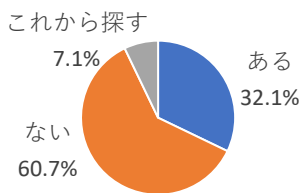
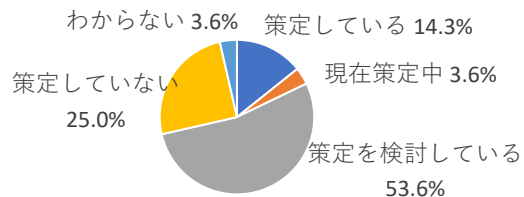


図 2 診療所の事業継続計画を策定しているか



- 令和 6 年 10 月 セミナー開催「能登半島地震において見えてきた BCP の必要性と有用性」
- 令和 7 年 2 月 連携ミーティング開催「能登半島地震での教訓とその後の医療的課題」
- 令和 7 年 4 月 BCP 策定検討会の設置
- 令和 7 年 6 月 在宅医療を提供する診療所等における災害時の事業継続計画（BCP）策定を支援するためのハンドブック作成
- 令和 7 年 10 月 セミナー開催「能登半島地震を経験した診療所のその後から学ぶ」
- 令和 8 年 2 月 連携ミーティング開催「災害時に利用者の命を守る医療・介護連携を考える」

## ● BCP 策定にあたっての大まかなプロセス

1. 目的および基本方針を明確にし、対応する組織づくりを行う
2. 想定されるリスクを抽出し、平時からの備えを検討する
3. 初期対応および緊急時対応のマニュアルを作成する
4. 重要業務を洗い出し、対応の優先順位を明確にする
5. 各対応の内容を具体化する
6. 全体を文章化し、整理する

BCP を検討する際には、こうした手順に加えて、基本となる考え方を理解しておくことも重要です。

### ★ すべての災害に共通する考え方（オールハザードアプローチ）

BCP では、特定の災害ごとに個別対応を考えるのではなく、災害・事故・感染症などあらゆる事象に共通する対応を軸に備える「オールハザードアプローチ」の考え方が重要です。

従来の災害マニュアルは「地震編」「風水害編」など事象ごとに作成されることが多いのに対し、BCP は「人員確保」「情報共有」「医療提供の継続」といった共通機能に着目し、どのような事態でも対応できる体制づくりを目指します。

例えば、停電・人手不足・通信障害といった状況は、原因となる災害が異なっても共通して発生し得る課題です。こうした共通課題への対応をあらかじめ整理しておくことが、実効性の高い BCP につながります。

最初から完璧な BCP を策定することは困難です。

まずは、定期的にクリニック内で BCP に関する話し合いの機会を設けることから始めてみましょう。

診療所の実情に合わせてスタッフと話し合いながら、使いやすい BCP を作成し、継続的に見直し・改善していくことが重要です。

## ● 連携型事業継続計画（BCP）

診療所だけでは対応が困難な状況に備え、災害時に在宅医療・介護を提供する診療所および事業所が患者および地域住民の生命を守ることを目的として、各地域（在宅療養連携ブロック）で話し合い、連携型事業継続計画（BCP）を策定します。

（内容）

- 地域の特性と想定されるリスクの抽出
- ブロック内の在宅療養に係る社会資源と連絡先
- 有事の連絡体制の構築
- BCP 連携の課題と対応
  - ・ 災害弱者の把握と対応の優先順位の設定
  - ・ 安否確認に関する役割分担と情報共有
  - ・ 診療所・訪問看護師・ケアマネとの連携体制 地域の病院との連携
  - ・ 地域住民、地域福祉団体との連携
- 地域 BCP（広域 BCP）に盛り込むべき事項の検討 など

## 診療所版 BCP 策定に向けて、はじめの一步 (BCP 策定ハンドブック 10 頁より)

BCP の策定には、有事の状況を具体的にイメージすることが大切です。しかし、経験のない災害への取り組みを考えるのは難しいものです。

そこで、過去の災害から抽出された課題をもとに作成された「チェックリスト」を、BCP 策定ハンドブックに掲載しました。

取り組みの糸口として、このチェックリストを活用し、診療所の現状を明らかにしてみましょう。その結果に基づき優先順位を整理して、できることから対応していくことが、策定へのはじめの一步となります。無理のない範囲で着実に取り組むことが、実効性のある BCP 策定につながります。

チェックリスト	できていることに☑	できていないことは要対策
<input type="checkbox"/>	想定される被害を把握している	
<input type="checkbox"/>	災害時情報を得る手段を把握している	
<input type="checkbox"/>	消火器や火災探知機、スプリンクラーなど二次被害を防ぐ対策をしている	
<input type="checkbox"/>	従業員を救出するための道具を用意している	
<input type="checkbox"/>	食料を院内などに備蓄している (最低 3 日分)	
<input type="checkbox"/>	定期的に備蓄品を確認している	
<input type="checkbox"/>	停電に備えて非常用電源を確保している	
<input type="checkbox"/>	医薬品を院内に備蓄している (または連携薬局など)	
<input type="checkbox"/>	緊急用医療バッグを備えている	
<input type="checkbox"/>	簡易トイレを用意している	
<input type="checkbox"/>	毛布やマスクなどを用意している	
<input type="checkbox"/>	ハザードマップにより、自機関の各リスク (地震・水害など) に関する被害想定を把握している	
<input type="checkbox"/>	建物の耐震について、また危険箇所を把握している	
<input type="checkbox"/>	落下防止対策をしている	
<input type="checkbox"/>	パソコンが机から落ちないように固定する	
<input type="checkbox"/>	鏡や額縁など壁に掛けた物が落下しないよう、室内植物や消火器は転倒しないように固定する	
<input type="checkbox"/>	並んでいるキャビネットは連結、背の高いキャビネットや収納庫は壁に固定する	
<input type="checkbox"/>	ファイルキャビネットの引き出しにラッチ (止め金) をつけて地震時に開かないようにする	
<input type="checkbox"/>	キャビネットの上に重い箱や書籍、器具を置かない	
<input type="checkbox"/>	コピー機やファックスなどの事務機や機械設備が床を滑ったり固定台から外れたりしないように対策を講じる	
<input type="checkbox"/>	建物や設備の点検を定期的に行っている	
<input type="checkbox"/>	避難経路を確保し、定期的に防災訓練を行っている	
<input type="checkbox"/>	地域と連携を取っている (日中のみならず、夜間、緊急時の連絡先の把握)	
<input type="checkbox"/>	各リスク (地震・水害・感染症など) 発生時の行動について全従業員で情報を共有している	
<input type="checkbox"/>	衛星通信など災害発生時の通信手段を複数確保している	
<input type="checkbox"/>	携帯電話などを充電できる非常用のバッテリーを準備している	
<input type="checkbox"/>	復旧に必要な資材や機材を把握している	
<input type="checkbox"/>	データの管理方法が決まっている	
<input type="checkbox"/>	重要なデータや管理・運営しているウェブサイトの復旧手段を把握している	
<input type="checkbox"/>	被災時に備えて保険や銀行の災害時融資を予約したり、自治体の災害時ローンを検討している	
<input type="checkbox"/>	安否を確認する手段が決まっている	
<input type="checkbox"/>	災害時、全従業員の帰宅方法を把握している	
<input type="checkbox"/>	全従業員の避難先を把握している	
<input type="checkbox"/>	全従業員の家族の安否の確認方法が決まっている	

いつ発生するかわからない災害や事故に備えることは、災害弱者になりやすい在宅療養者にこそ重要です。災害時に命を守るためには、安全を確保し、支援が得られるまで自宅や避難所で持ちこたえるための意識と事前の準備が必要です。

そのため、リンクパスポート発行時には、18 頁のリーフレットを患者さん・ご家族に説明し、準備を促しながら記入することを進めます。作成後は定期的に見直し、状況に応じた更新も必要です。担当する在宅医療・介護スタッフが記入を支援し、有事の支援体制についてあらかじめ共有しておくことで、円滑な対応につながります。

## 災害時に命を守る準備 できていますか？

今からできる備えをチェックしましょう！

### ★ ベッドまわりの安全を確認！

- 地震で家具が倒れないか？物が落ちてこないか？（→固定など）
- 避難経路は確保されているか？（→足元・床の整理整頓）

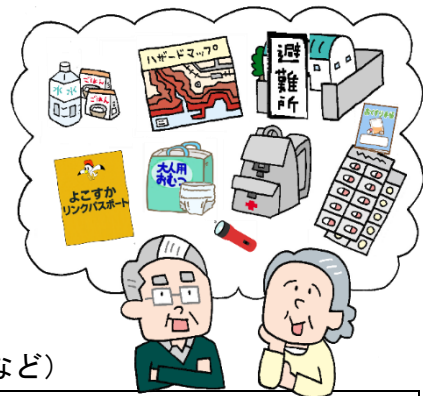


### ★ 「いつものお薬」予備を準備！

- 1 週間分の内服薬・外用薬を用意

### ★ 「非常持ち出し袋」は準備 OK？

- 衛生用品（着替え、下着やオムツ）
- 非常食・飲料水
- お金（小銭も）
- 懐中電灯（予備の電池）



### 避難する時は

- リンクパスポート、薬・お薬手帳も忘れずに！

### ★ 医療機器を使っている方は…

- 非常用電源の確保（予備のバッテリー・ポンプなど）

使用中の医療機器名	
メンテナンス会社	
緊急連絡先	

### ★ 避難場所・医療救護所・福祉避難所を確認！

第一避難場所	
第二避難場所	
福祉避難所	

### ★ 移動手段の確認（誰と・どうやって）

第一避難場所まで	
第二避難場所まで	
福祉避難所	

### ★ 緊急連絡先：消防・救急…119 警察…110 災害用伝言ダイヤル…171

### ★ あなたの緊急連絡先

緊急連絡先①	
緊急連絡先②	
近隣の災害拠点病院	